

1 はじめに

本校の図書室は普通教室のすぐ近くにあるため、短い昼休みの間にも本を読んだり借りたりする生徒たちを毎日見かける。しかし、その一方でゲームや動画が好きな生徒も多く、どの生徒も本に親しむ機会を作っていくことが課題である。そこで、本校では次のような取り組みを行っている。

2 具体的な取り組み

(1) 図書館オリエンテーション

- ・図書館内でのマナーを指導する。
- ・図書の借り方を丁寧に指導し、実際に一冊ずつ選ばせる。

(2) 朝読書

- ・8:15～8:25の10分間。
- ・図書室の本を読むことをルールとしている。

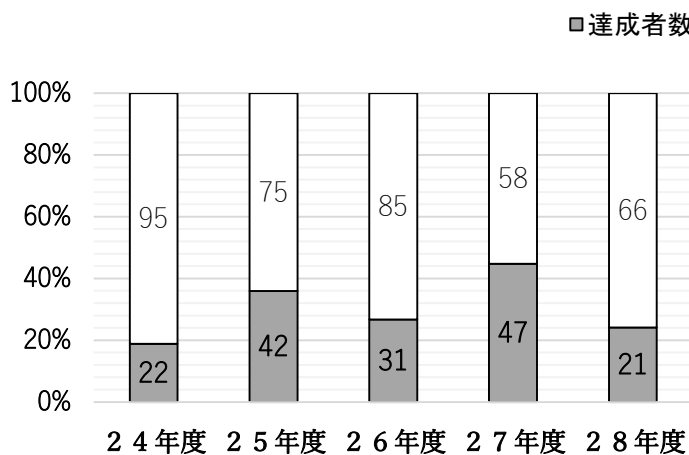


(3) チャレンジフィフティー

(豊岡市教育委員会の取り組みで、読書習慣の定着を目指して行われている。1年間に30冊の本を読むことができれば、認定証が交付される。)

- ・月末に読書冊数を記録することで、読書への意識を高めている。
- ・毎年全校生の2割以上の者が30冊を達成している。
- ・豊岡市推薦図書の読書冊数調査も行っている。

チャレンジフィフティー達成者数
(実人数)



(4) 委員会活動

- ・図書当番 (朝、昼休み、水曜日の放課後)



- ・新着図書の登録
- ・ポスター作り（図書室のマナー、おすすめの本の紹介）
- ・コーナー作り（新刊コーナー、おすすめの本のコーナー）
- ・読みたい本のアンケートの実施



(5) 図書室での授業・図書を用いた授業

①「心に響いた詩を紹介しよう」（1年生国語）

図書室で多くの詩集を手に取り、気に入った詩を探し、紹介する文章を書いた。

②「読書紹介をしよう」（1年生国語）

好きな本のあらすじやキャッチコピーをまとめた作品を完成させた。



③「本の帯を作ろう」（1・2年生国語）

新刊図書の本の帯に載っている内容を学んでから、本の帯作りを行った。

（1年生・・・自分が紹介したい本 2年生・・・「走れメロス」）

④「職業調べ」（1年生総合的な学習）

職業ガイドブックでどのような職業があるのかを調べ、調べる職業を決定した。



(6) 絵本の読み聞かせ

- ・今年度は9名の方にお世話になっている。（地域の方4名、保護者3名、豊岡市立図書館但東分館の方2名）
- ・実施時間は8：15～8：25の10分間。
- ・28年度は12回実施した。



(7) その他

- ・豊岡市推薦図書のコーナー
- ・豊岡市立図書館のコーナー



3 おわりに

これらの取り組みは、生徒と本との出会いや読書活動をサポートするものであり、今後も続けていくべきものだと考えている。（4）の委員会活動については、今後も図書委員とともに良い図書館作りを考え、新しい企画を実行していきたい。また、（5）の授業作りについても生徒の読書の意欲を高めるようなものを目指して実践していきたい。

学校図書館の運営

養父市立八鹿青溪中学校 小林 美枝子

1 はじめに

養父市は「そうあんくんの日」を設定し、家庭での読書や親子読書など読書活動に力をいれている。しかし、司書の配置はなく、図書館運営や読書指導は国語科の教員が行っている。インターネット等の普及により生徒達の読書離れが進んでいる。

中学校の図書館教育部会で挙げた課題をもとに、各校の特長や実態にあわせて多様な取組をおこなった。読書の楽しさや喜びを感じられる図書館運営の在り方を紹介したい。

(市内中学校の図書館運営・教育の課題)

4中学校が集まる図書館教育部会で、図書館教育及び学校図書館運営の課題をそれぞれ挙げ、課題共有した。そして、課題をもとに各校の特長、実態にあわせてとりくみをおこなった。

① 生徒が好きな本に偏りがある

(ライトノベル、ドラマ・映画の書き下ろし本やエンターテインメント性の強い小説が好まれる傾向にある)

② 生徒が図書室に行く時間が少ない

(部活動の朝・放課後練習、給食当番の後片付け、放課後の委員会等)

③ 奥のほうにしまわれたままの蔵書が多くある

(古典全集、文学全集、調べ物関係、図鑑 等)

2 具体的な取組

Ⅰ もっと読みたくなる！ 学校図書の仕事づくり (関宮中)

(生徒の声)

- ・朝練や委員会活動で図書室に行きたくても行けない。
- ・図書室が開室していない休み時間にも本を読みたい。
- ・委員会活動が通年で同じような活動内容になってしまっている。

以上をふまえ小規模校の特長を生かした取り組みを行った

- ・他教科の担当者と連携して校内（廊下等）に図書コーナーを設置し、社会の歴史漫画、理科の図鑑等をおいた。
- ・図書室の蔵書から、親しみやすい内容の本を選び出しミニ学級文庫コーナーを設置した。
- ・図書室の棚を有効活用し、本の配置を工夫した。
- ・全校集会で図書委員が本の紹介をする取組を行った。



II 地域ボランティアとの連携（大屋中）

（取組のねらい）

- ・「朝読書の時間」に計画的に「読み聞かせ」を入れて変化をもたせることにより、読書への意欲を高めるとともに、生徒の心や感性を磨く。
- ・小中連携教育の観点から9年間を見通して地域の方とのつながりの中、読書活動の充実を図り、言語能力の系統的な育成を目指す。

（留意点）

- ・余韻に浸り楽しむために、感想は聞かない。
- ・子どもの年齢にとらわれず易しいものを選書の規準とする。中学生でも絵本がよい。

（取組の手順）

- ・地域ボランティアによる3年間の読み聞かせ
- ・各学年毎月1回・朝読書の時間に実施
- ・小中9年間を振り返る→中3によるお礼状

III 魅力ある図書室づくり（養父中）

具体的な取り組み

- ・図書室オリエンテーション→図書室の利用の仕方やマナーなどを指導する。
- ・朝読書タイム→全ての学年で年間を通して、朝8：20～8：30の10分間、読書を行う。
読書の本は、図書室の本を利用するようにしている。
- ・小黒板の記入（図書室前・体育館前など）おすすめ本の紹介や図書だよりの発行・ポスター作成



IV 国語科と連携した図書館教育（八鹿青溪中）

- ・4月23日から5月12日までの「こども読書週間」の取り組みとして、「本の借りかえ」を呼びかけた。
（例年、学期の最初にクラス一斉に借りた後、まったく借りない生徒がいる）
- ・夏休みと冬休みは「読書マラソン」として、読んだ本のページ数をクラスや個人で競う。上位は表彰する。長期休業中を活用して本を読む取組を積極的に行っている。また、国語の教科書に載っている本（読書紹介）のスタンプラリーを行うことも計画している。
- ・2学期には生徒が自分の好きな作品を持ち寄り紹介する「ビブリオバトル」を計画している。その前段階として、国語の授業で本の紹介を練習した。（1年「光る地平線」で、ポップ、紹介箱、本の帯づくり）

3 おわりに

各校とも読書タイムや読み聞かせ、本の配置の工夫など様々な工夫をしている。また、他教科や学校行事とも連携して図書室の利用を多方面に広げている。図書館教育を積極的に改善に取り組むことで図書室に顔を出す生徒も増えてきた。今後も取組を継続していきたい。